

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

西麻植学校
「学力向上実行プラン」

豊かな心と確かな学力をはぐくむ学習活動の創造

学力向上推進員
森 浩子

委員 橋本浩司(校長)・長谷美穂(教頭)・美馬和美(1年担任)・吉井日向子(2年担任)・山林諭未(3年担任)・森浩子(研修主任・4年担任)・平野貴志(5年担任)・白岩晃資(6年担任)・近久美穂(教務主任・特別支援担任)・長谷川奈都美(特別支援担任)・吉峯力(児童生徒支援)・近藤正二(専科)三木由里(養護教諭)・森山弘美(非常勤講師)・栗田幸奈(支援員)

校長

橋本 浩司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、意見交換等、機会を捉えて、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、漢字の読み書きや計算など、基礎・基本の内容のおおよそを身につけている。 ●学習内容の定着に差があり、学力の差が大きい。 ●身につけた知識・技能があまり活用できていない。	・漢字・言葉・計算など基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・身に付けた知識・技能を家庭学習や生活の中で活用している。	・ドリル学習等で漢字・計算の課題を繰り返し行うとともに、ミニテスト等の中間評価により理解度を把握し、改善と対策を図る。 ・学習に安心して取り組めるよう、個別の状況に応じた多様な学習課題や支援の手立て(ヒントカード)を用意する。 ・タブレットのドリル活用により、「個別最適な学び」に導く。 ・自主学習や日記などで身に付けた知識・技能を活用する機会を意図的に設定する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的意識をもって、自分の思いや考えを話したり書いたりする意欲が育ってきている。 ●語彙の広がりが少なく、スピーチや作文などの表現力に課題が見られる。	・目的意識や相手意識をもち、相手に伝えるように話したり書いたりすることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら話したり、友達の意見と比較して聞いたりすることで自分の思いや考えを深め、表現することができる。	・目的意識や相手意識をもたせられる言語活動を設定し、思考が深められるような発問・指示の工夫を行う。 ・他者との交流や体験活動により、考えを広げ、相手を意識した表現ができる場を設定する。 ・国語科教科書「ことばのたからばこ」を常備させ、活用する場面を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は真面目に取り組むことができる。 ●「もっと知りたい、調べたい」という意欲や自分なりのめあてをもって学習に取り組む児童が少なく、また、意欲はあっても、具体的な学習の仕方が分からない児童がいる。	・これまでの経験をもとに新たな学習課題を自ら見つけ、「もっと知りたい、調べたい」という意欲と目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	・学習したことを自己の課題につなげたり、生活の中で生かしたりできるように「ふりかえり」を充実させる。 ・タブレットを効果的に活用することや導入の工夫により、学習意欲を高める。 ・学びを次時の学習や生活に生かせる場を設定する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



